

第3章 地域の現状と課題

3-1 地域の概況

(1) 宗谷管内の地形・地勢

宗谷総合振興局管内は、北海道の北部にあり、利尻島・礼文島を含めた1市8町1村からなります。西は日本海、東はオホーツク海に面し、北は宗谷海峡を経てサハリンを望みます。南は天塩川により留萌管内と、宗谷丘陵・北見山地を境に上川管内と、南東は管内最北端の宗谷岬からオホーツク海沿岸を130km南下したところでオホーツク管内に接します。

広さは東西148km、南北100kmにおよび、面積4,625.70km²は北海道総面積の約5.5%を占め、京都府(4,612.20km²)にほぼ匹敵します。

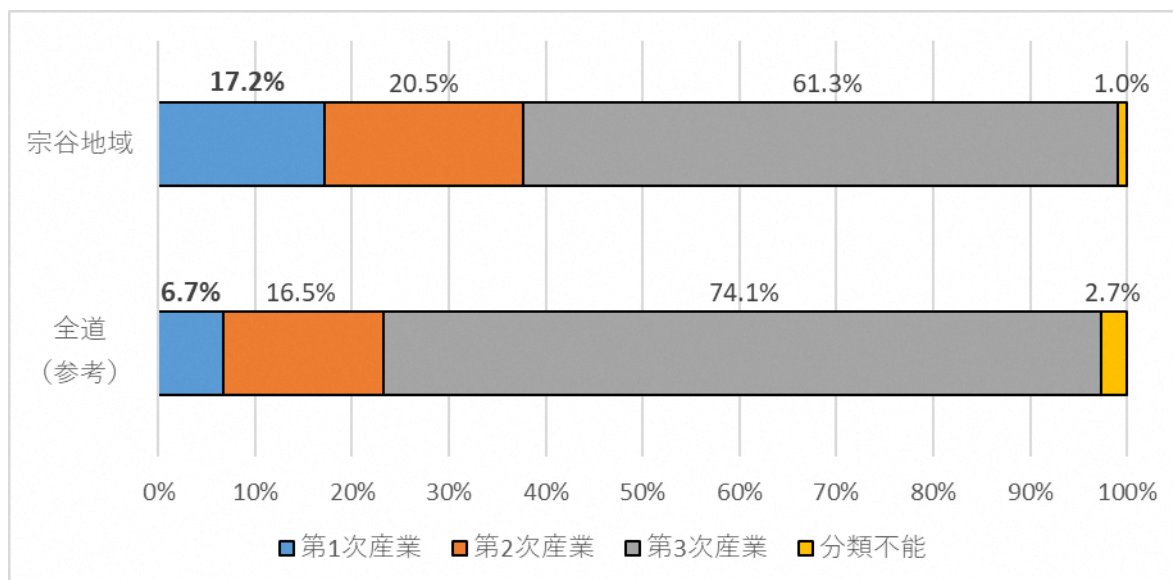
管内北部は、宗谷丘陵を中央に、西部には広大なサロベツ原野、東部にはクッチャロ湖を有する頓別平野が広がります。管内南部は山岳地が広く分布し、河川周辺のみで形成される平坦地がオホーツク海まで続いています。また、利尻島は利尻山(海拔1,721m)を中心としたほぼ円形の島で、礼文島は南北に細長い丘陵状の島です。



図3-1 宗谷管内図

(2) 産業構造

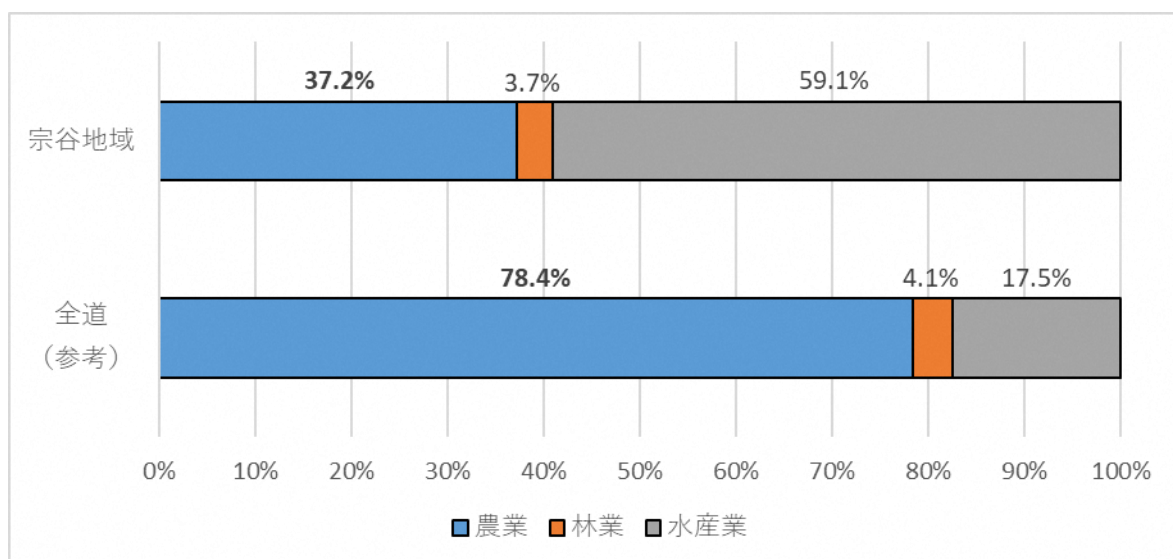
本地域では北海道全体と比較し、第1次産業（農林水産業）の従事者が多く、第1次産業の中でも農業、水産業が基幹産業となっています。



(出典：総務省統計局「令和2年国勢調査」

(<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka.html>) をもとに作成)

図3-2 産業別就業者数



(出典：総務省統計局「令和2年国勢調査」

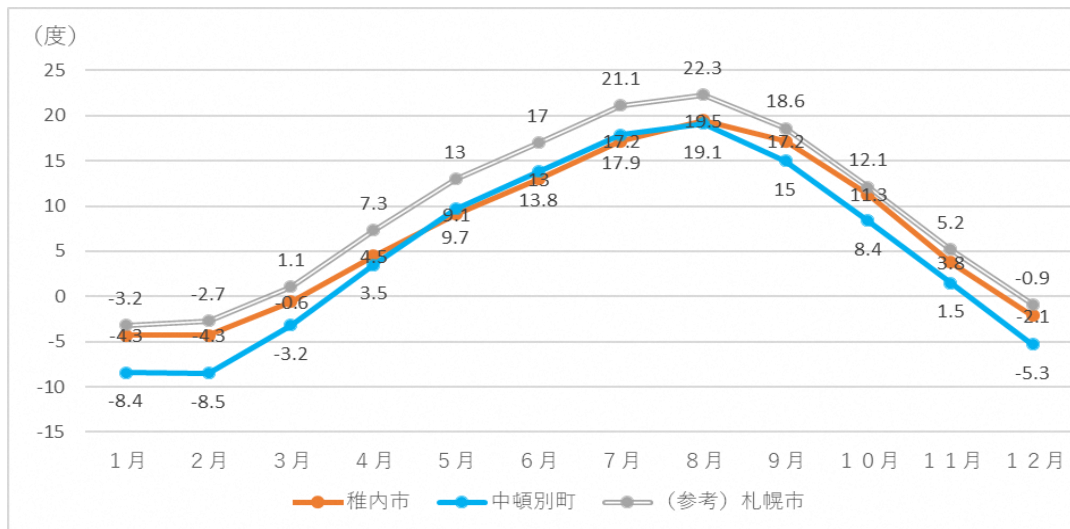
(<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka.html>) をもとに作成)

図3-3 第1次産業従事者数の内訳

(3) 気候・気温

本地域の気候は、日本海、オホーツク海に面する海洋性の気候と、山岳地帯及び河川地域の内陸気候に大別することができます。北海道の太平洋側等の地域に比べると夏期間の降水量は約 200～300mm と少ないですが、地形の影響等により短時間に雨量が多くなる地域もあります。

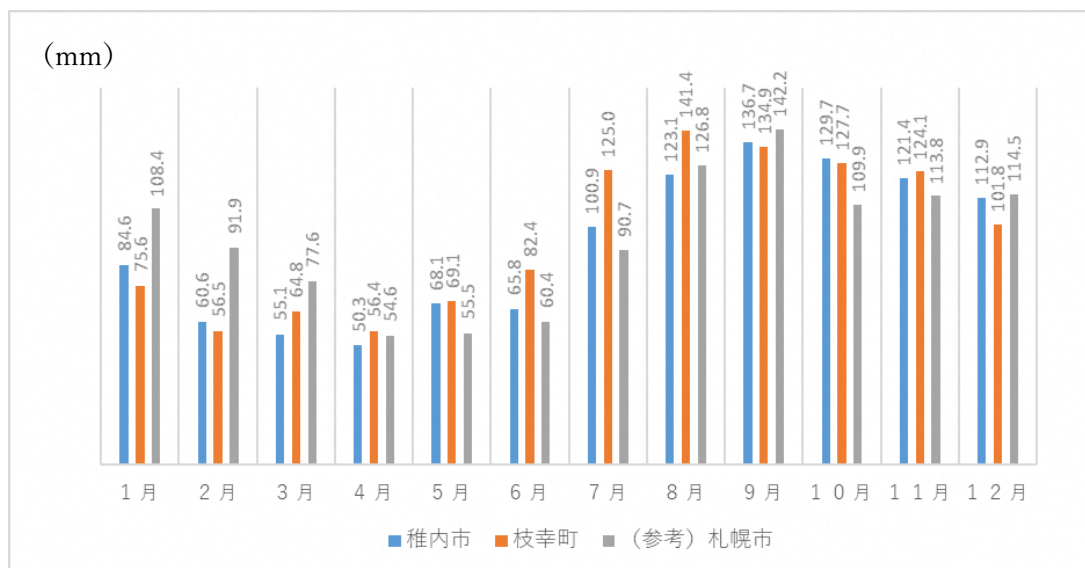
また、本地域は札幌市に比べ、1～3月は降水量が少なく、5月～7月は多くなっているのが特徴です。



(出典：国土交通省気象庁「過去の気象データ」

(<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>) をもとに作成)

図 3-4 平均気温 (過去 30 年間 (1991-2020 年) 平均)



(出典：国土交通省気象庁「過去の気象データ」

(<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>) をもとに作成)

図 3-5 平均月間降水量 (過去 30 年間 (1991-2020 年) 平均)